

第3学年 社会科学習指導案

に組 男子 20 名 女子 19 名 計 39 名
指 導 者 枝 迫 大 明

1 小 単 元 学校のまわりのようす

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに生活科の鴨池周辺の探検を通して、「みんなに学校のまわりの様子を紹介したい」という願いや、町や人々の様子に対しての多様な気付きをもって活動をしてきている。このような学習をしてきている子どもたちは、学校周辺の特色に目を向け、鴨池以外の地域について関心をもち始めている。そして、実際に見学に出かけたり、資料や地図を活用して詳しく調べたり、調べたことや考えたことを基に、より高まった自分の考えを絵地図や紹介文などにまとめ、友達に伝えたいという意欲が高まってきている。

そこで、本小単元では、学校周辺の様子を取り上げ、地形や土地利用の様子、交通の様子などについて追究する活動を通して、場所によって違いがあることをとらえさせるようにする。さらに、実際に自分で見たり聞いたりして意欲を高めるとともに、地図や写真資料などの資料活用力を発揮させながら、資料を比較させたり関連付けさせ、類似点や相違点を明らかにして、地形や土地利用の様子、交通の様子について考えることができるようにする。

このような学習は、鹿児島市の地形や土地利用の様子、交通の様子、公共施設の分布や昔からの建造物について追究する学習へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

附属小学校周辺には、主に大学の施設や住宅地が見られ、昔からの地域住民の住居だけでなく大学生のための住居もある。小学校を中心に見てみると、北東の方位には平らな土地が広がり、一軒家やマンションなどの高層ビル、飲食店などが見られ、道路が広く自家用車やバスなどの交通量が多い。南西の方位には、山の斜面に一軒家が多く集まり、道路は狭く、電車やJRなどの公共機関が見られる。このように、学校周辺の様子は、地理的な条件、社会的な条件により、場所によって違いが見られたり、交通の様子には土地利用の様子と関連して発達している様子が見られたりする。

そこで、ここでは、場所によって違いがあることをより具体的に考えられるようにするために、地形や土地利用の様子、交通の様子を取り上げていく。そして、それぞれの様子を関連付けさせて話し合わせながら、学校周辺の場所による違いをとらえさせるようにしていく。その際、なぜそのように考えたのか根拠を示しながら、北東側と南西側を比較させながら話し合わせるようにする。

そのために、まず、学校の周りの様子について想起させ、学校を中心にした方位や通学路の様子について話し合い、わかることやわからないことを明らかにさせながら、学校の周りの様子はどのようになっているのかという問題意識をもたせるようにする。次に、学習問題に対する一人ひとりの予想を基に、追究計画を立てさせ、学校周辺の白地図や写真資料、見学メモ、作成した絵地図などの資料を基に、地形や土地利用の様子、交通の様子の観点から調べさせる。そこで、実際に見学して分かったことを、観点に沿って整理させながら、調べたことを絵地図にまとめさせたり、地図記号の必要性を考えさせたりする。そして、方位ごとに土地の様子や土地利用の様子を比較させながら話し合わせて、学校周辺の様子の場所による違いをとらえさせる。さらに、土地利用の様子と交通の様子を関連付けて考えられるようにもする。また、**追究する過程においては、方位や主な地図記号を理解し活用できるように、地図に表したり地図から読み取らせたりさせる。**

このような学習を通して、子どもたちは学校周辺の土地の様子や土地利用の様子、交通の様子が分かる楽しさを味わいながら、観察して分かったことを地図に表す力を高めたり、学校周辺の様子を比較・関連付けながら、場所によって違いがあることを考える力を高めたりすることになる。

(3) **子どもの実態**（調査人数 39 名，質問紙法，ウェッビング図，重複回答，主な質問事項のみ記入）

この学級の子どもたちの学校周辺の様子に対する見方や考え方は次の通りである。

1	主な学校周辺の土地の様子 広い(8)，せまい(5)，高い(4)
2	主な学校周辺の土地利用の様子 大学(26)，中学校(22)，コンビニ(13)，マンションやビル(10) 幼稚園(10)，家(6)，公園(4)，小学校(4)，コインパーキング(2)
3	主な学校周辺の交通の様子 車が多い(8)，バスが走っている(6)，電車が走っている(5) 信号が多い(4)，歩道橋がある(5)，駅がある(3)
4	地図について ① 地図を作った経験…ある(19)，ない(20) ② 地図を使った探検…ある(14)，ない(25)
5	地図記号について ① 地図記号に関する知識・理解 知っている(19) 知らない(20) ② 地図記号を使うよさ 何があるかわかる(5)，位置がわかる(3)，迷わない(1)
6	資料活用力 ① 表…表の主題(14)，量の変化(6) ② 写真…交通量(19)，道路の幅(15)，集まり(4)，高低差(4)
7	ウェッビング図による傾向

子どもたちは，これまでの学習や生活経験から，自分たちが通う学校周辺には，様々な施設があることや，学校を中心にしてどこがどんな様子になっているのかもとらえている。しかし，地形に目を向けたり，土地利用の様子が場所によって違いがあることをとらえている子どもは少ない。そこで，地形や土地利用の様子については，集まったり広がったりしている様子に目を向けさせながら学習を展開したい。交通の様子については，交通量の大小や交通機関の種類に目を向けている子どもが多く，主な道路と住宅や商店の分布との関連で考える子どもは少ないことから，公共機関と土地利用の様子を具体的に取り上げていきたい。

そして，自分なりの地図を作った経験や作った地図で探検をしたことがある子どもが多く，地図記号に関心をもつ子どももいることから，**自分で見たり聞いたりしたことを基に地図をつくらせながら，地図記号や方位を使うよさを味わわせ，学校周辺の様子を詳しく調べたいという意欲を高めていきたい。**また，表や写真の部分に着目させ，部分同士を比較して考えさせながら，**深まった見方や考え方を生かして地図作りができるようにしたり，地図を基にグループや全体での話し合い活動に意欲的に取り組んだりできるようにしたい。**

(4) **指導上の留意点**

以上のことを踏まえ，指導に当たっては，次のようなことに留意したい。

単元の学習過程においては，「土地の様子」「土地の使われ方」「交通の様子」という追究の柱で主体的な追究をさせていく。その際，それぞれの学習過程において言語活動や体験活動を充実させるようにする。

ア まず，登下校の際に学校の周りで見かけるものを話し合わせ，様々な地形や土地利用，通学手段があるということに気付かせたり，どこにあるのだろうかという問題意識をもたせたりする。そして，学校の周りの様子について予想させ，具体的な追究計画を立てさせる。そうすることによって，見通しをもったり，自分の考えをもったりしながら，学習を展開できる喜びや楽しさを味わえるようにしたい。

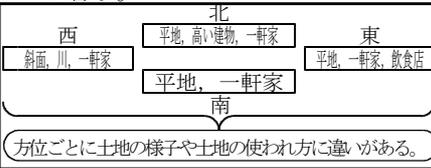
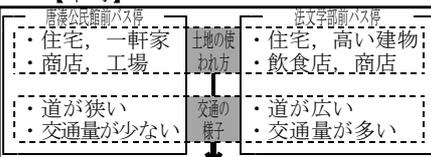
イ 学校の周りの様子を明らかにするために，土地の高低や土地利用の分布，道路の様子や交通機関の種類を具体的に調べられるようにする。そこで，まず，学校を中心とした高い位置からの様子を調べ，様々な地形や土地利用があることを方位ごとに絵図でまとめさせる。次に，**わからないことや詳しく知りたいことから探検に出かける必要があることに気付かせ，学校周辺の探検を通して地図にまとめたいという意欲を高めていきたい。**その際は，地図記号や方位を明らかにすることが必要であることに気付かせながら活動させる。そして，調べたことを基に，方位ごとに比較させ，地形や土地利用の様子，交通の様子に違いがあることや，それらが関連していることを考えさせるようにする。そこで，交通の様子においては，**土地利用の違いとバスの運行の本数や時間帯による違いを基に話し合わせ，土地利用の様子と交通の様子が関連していることが説明できるようにする。**

ウ 追究した結果，学校の周りの様子について予想したことを振り返らせながら，**自分なりにわかったことを作成した地図にまとめさせ，自分の見方や考え方が深まっていった過程に有能感や地図を活用できるよさを味わわせるようにしたい。**

3 目 標

- (1) 学校周辺の様子について関心を持ち、これまでの学習や生活経験を振り返りながら取り組むことができる。
- (2) 学校周辺の様子を方位ごとに比較しながら、学校周辺の様子の違いを土地の様子や土地の使われ方、交通の様子を関連付けて考えることができる。
- (3) 自分の調べたことを明確にしていくために、観察してわかったことを、地図記号を使った絵地図にまとめることができる。
- (4) 私たちの学校周辺は、土地の様子や土地の使われ方、交通の様子などに特色があり、それらは場所によって違いがあることを理解することができる。

4 指導計画(全12時間)

学習過程	主な学習活動	学び合う喜びや楽しさの深まり	教師の具体的な働きかけ
つかむ ① 立 て る ① 調 べ る ⑨ 生 ま か す め る ①	1 通学の経験を基に、学校の周りの様子について、どこにどんなものがあるか、どのようにしているのか話し合う。 2 学校周辺の様子について、疑問に思うことやわからないことを話し合い、学習問題を設定する。 学校のまわりの様子はどのようになっているのだろうか。 3 予想を基に、追究する内容や方法を話し合う。 [調べる内容：追究の柱] ○ 土地の様子(高低、広がりなど) ○ 土地の使われ方(住宅、商店など) ○ 交通の様子(道路の幅、交通量など) [調べる方法や資料] ○ 観察、探検、探検メモ、教科書、のびゆく鹿児島、航空写真 4 学校の屋上からの様子を、方位ごとにどんなものが見られるか観察し、絵図や文にまとめる。 5 方位ごとに、どんなものが見られたか話し合い、学校の周りの様子ではつきりしないことを明らかにするための探検の計画を立てる。 6 学校の周りを探検し、気付いたことを探検メモをとる。 7 探検したことを基に、グループで白地図に整理する。 8 絵地図を基に、わかったことを話し合う。 (1) 土地の様子や土地利用について話し合う。  (2) 交通の様子について話し合う。 【本時】  土地の使われ方や交通の様子が場所によって違う。 学校のまわりの様子は、場所によって違いがある。 9 これまでの学習を振り返り、わかったことを地図や紹介文にまとめる。	学び合う喜びや楽しさの深まり 家の近くに川があるよ。 いろんな建物があるよ。 バスや電車がが多いよ。 見たことがあるけど、どこにあるのかな。 見たことも、どこにあるかも知らないな。 学校の周りの様子はどのようになっているのかな。 しっかりと見てみたいな。 一目で全部見られないかな。 自分で探検するとういいな。 鳥の目になると見られるな。 自分の目で確かめたいな。 高いところからは一目で見られていいな。 細かいところが見えなくて不便だよ。 詳しく知るために、探検する必要があるな。 自分の目で確かめたことを地図にまとめたいな。 ほとんどどが坂だよ。 一軒家がほとんどだよ。 道路が狭くて大変だよ。 土地の様子や土地の使われ方が場所によって違うな。 土地の使われ方と交通の様子につながりがあるな。 場所によって違いがある理由がわかるな。 もう一度地図をまとめてみたいな。 見学した場所の紹介をしてみたいな。 地図記号や方位が使えようになると楽しいし、地図が使えようになるとなっているのがわかるな。	教師の具体的な働きかけ ◎ 地図(学校の周り) ○ 学校周辺の様子についてわかることやわからないことを明らかにするために、学校を中心とした方位や登下校中の通学路の様子について話し合う。 ◎ 写真(学校周辺の航空写真) ○ 高いところから見ることよき気付けさせるために、航空写真を掲示し、どこから撮っているのか話し合わせる。 ◎ DVD(屋上からの様子) ○ 土地の高低や広がり気付けさせるために、方位ごとに地形や土地利用の様子を観察させ、カードに記述させる。 ○ 探検への意欲を高めるために、細かいところが不十分なことに着目させる。 ○ 探検の見通しをもたせるために、どこの地域やどんなルートで探検するかを確認する。 ◎ 探検メモ ○ 探検してわかったことを明らかにさせるために、絵図や文を使って、記述させる。 ○ どこを歩いているのかを明らかにさせるために、目印となる施設や交差点、向かっている方位を確認させるようにする。 ◎ 地図(学校周辺の白地図) ○ 同じ観点から地図を基に話し合わせるために、見学の観点に沿って、共通の色を使って色分けできるようにする。 ○ みんなにわかりやすい地図にするために、絵記号から地図記号にすることよき気付けさせる。 ◎ 写真(方位ごとの様子) ○ 場所による違いをとらえさせるために、同じ観点で比較させ、どんな違いがあるかを説明させる。 ◎ バスの時刻表(北東側と南西側) ○ 方位によって時刻や本数に違いがあることに気付けさせるために、本数や時間帯による偏りに着目させる。 ◎ 地図(学校周辺の地図) ○ これまでの学習を生かして地図を作成できた有能感を味わわせるために、習得した地図記号や方位を振り返りながら、場所による違いについてまとめる。 ○ 市内の他の場所も調べたいという意欲を高めるために、自宅周辺の様子について話し合わせる。

5 本 時 (11/12)

(1) 目 標

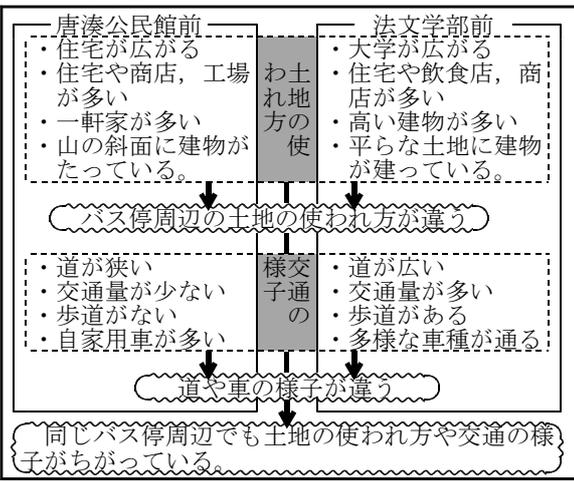
ア 学校の周りの交通の様子について、これまでに調べたことや高まった自分の考えを生かしながら、意欲的に追究することができる。

イ 学校周辺の交通の様子について話し合うことを通して、交通の様子が場所によって変わることを土地の使われ方と関連付けてとらえることができる。

(2) 指導に当たって

本時の展開に当たっては、交通の様子が土地利用の様子と関連していることをとらえさせるために、バス停の位置や土地の使われ方だけでなく、**北東側の法文学部前のバス停の様子と南西側の唐湊公民館前の様子を比較させ、道の幅や交通量の違いに着目させながら類似点や相違点を説明させるようにしたい。**

(3) 実 際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
の追 具 究 体 問 化 題	1 本時における追究問題を確認し、具体化する。 なぜ、とそこうみんかん前と法文学部前でバスの本数がちがうのだろうか。	(分)	㊦ 表(唐湊公民館前と法文学部前のバスの運行表) ○ 「同じ学校周辺なのに、同じ時間帯でもバスの本数が違うのはなぜだろうか。」という問いをもたせるために、バスの本数を比較させながら話し合わせる。
計 追 画 究	2 学習の進め方や資料について話し合う。 ・ 一人調べ→グループでの話し合い→全体での話し合い ・ 資料→自分の考えの根拠となるもの、グループで作成した地図	8	○ 本時の学習の進め方を明確にし、見通しを持った追究ができるようにするために、前時で学習した土地の使われ方を振り返らせながら追究させるようにする。
追 究 問 題 の 究 明	3 土地の使われ方や交通の様子について話し合う。 (1) 土地の使われ方について話し合う。 (2) 交通の様子について話し合う。 	32	㊦ グループで作成した地図(学校周辺の様子) ○ バス停の位置と土地の使われ方の違いを明らかにさせるために、自分たちが作成した地図のバス停周辺の様子に着目させ、バス停周辺の土地の使われ方について話し合わせる。 ㊦ 数値(道の幅) ○ 道の幅の違いをとらえさせるために、数値を掲示しながら「道の幅がちがうと、どんなことが変わってくるのだろうか。」と発問しながら話し合わせる。 ㊦ DVD, 写真(唐湊公民館周辺, 法文学部前)
ま と め	4 本時の学習についてまとめる。 バスの本数がちがうのは、土地の使われ方によって交通の様子もちがうから。 5 次時の学習について話し合う。 ○ 学校の周りの様子について振り返る	5	○ 交通量や車種の違いをとらえさせるために、それぞれのバス停の交通の様子を比較させながら説明させる。 ㊦ DVD(唐湊公民館前のバスの発着) ○ 地域住民が多く住み、バスを利用しやすくしていることをとらえさせるために、「なぜ、狭いところにバスが入るのだろうか。」と発問し、話し合わせる。